

草の芽句会だより

NO, 184
23 , 12, 7

偲ばれる友の笑顔とシフトーレン
友去りし一人の窓の冬の街

範子

窓ぎわの冬の朝日や暖かし
木々揺れる枯葉とぼして舞上る

貞子

撫で薬壺無病息災冬札所
御影堂や古色の廊下寒さあり

純子

虚子三代句碑ある札所散紅葉
薬師堂拝む背中冬ぬくし

禮子

落葉して風の騒げる遍路道
暮れ際のお札所石露の花咲ける

剋子

相つどい三角帽子クリスマス
クリスマスリースそれぞれ老人会

節子

出席者 吉崎 川原 森 馬場 小山
投句者 氏家

今年の納句会である。コロナのため中断していた師走の楽しい句会がやっと再開である。総本山善通寺も久しぶり。本堂にお詣り

をして香煙を浴び、薬師如来様に手を合わせる。お願いはたくさん。「家族が健康で過ごせますように」「交通事故をおこしませんように」「顔のシワがこれ以上増えませぬように」と。そして、いざ吟行である。境内にはお遍路さんの姿が多い。残る紅葉を愛でて楽しんでる親子

もいる。御影堂地下の暗闇回廊は大人気であるが、私達は辞めにする。「暗闇で転んで骨折してもいかん」「お弁当が待つとるし怪我やしておれんで」境内には冬空

が広がり心なしか遍路も足早である。この一年いろいろとあった。入院したりデイサービスで句会への出席がままならない、そして還らぬ人となった友も。出席者は少なくなったが気心なして私たちが。寄って喋って好きな句作りをする楽しい刻を、一日でも長く続けたいと心より願っている。

